

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人一葉会	代表者	理事長 長尾 春夫	法人・事業所の 特徴	法人の基本理念「人は組織をつくり、組織は人をつくる」に基づき、当事業所では「私達は人権を守ります」「私達は思いに寄り添います」を理念に掲げ、利用者の心身の状況、希望及びその置かれている環境を踏まえて、通い、訪問、宿泊サービスを柔軟に組み合わせることにより、24時間を通して地域での暮らしの支援に努めます。
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 たんぼの丘	管理者	堀内 紀子		

出席者	市町村職員		地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0 人	0 人	5 人	0 人	0 人	1 人	1 人	0 人	0 人	7 人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	更に情報の見直しを継続し、簡潔かつ正確な情報共有を目指す。職員間で統一した対応が出来るようにする。	継続して情報の見直しを行い、簡潔かつ正確な情報共有を目指し行ってきたものの、職員間での認識の違いが生じる事もあった。		今一度、職員間での認識の違いが生じる事の無いように情報の共有方法の見直しを行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	「通信」の町内への配布を通して情報の発信を継続していく。利用者や家族に更に寄り添う対応を目指し、丁寧な対話を続けて行く。コロナ終息後も環境の整備は継続する。	町内への「通信」の配布やホームページで事業所内の様子を伝える事ができた。利用者様や家族のニーズに応えられるよう柔軟な対応に努めた。まだまだ家族や地域の方が気軽に立ち寄れる環境の整備が不十分であった。	外部評価の資料配布時に説明を行い、個々に意見交換を行った。その中でサービス評価の記入の仕方や事業所内容が「分からない」との意見が聞かれた。	町内への「通信」の配布やホームページを通じて事業所の情報を継続して行う。また、家族や地域の方が気軽に立ち寄れる環境づくりをしていく。
C. 事業所と地域のかかわり	職員一人一人が事業所の役割や特性を説明できるよう情報の把握に努め、地域との交流がスムーズに行えるようにする。	職員一人一人が事業所の役割や特性を説明できるよう情報の把握に努めたが、地域との交流が出来ていなかった。	相談を主に、地域包括支援センターを利用している。民生委員や役員は交流や意見を言いやすいが、その他の地域の方は交流や意見など言えないと思う。	相談窓口や事業内容として、より地域に知ってもらえるように、情報交換会等を設ける。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	コロナ終息時に、利用者様が地域との繋がりを維持できるよう、安全に地域に出向ける環境づくりに継続して取り組む。	コロナが昨年の5月により「5類感染症」に移行より、利用者様が少しずつ以前のように安全に地域へ出向けるように計画できた。	外部評価の資料配布時に説明を行い、個々に意見交換を行った。その中でサービス評価の記入の仕方や事業所内容が「分からない」との意見が聞かれた。	以前のように、地域の行事やイベントに積極的に参加し、地域とのつながりを増やし、利用者様が地域に出向ける環境づくりに継続して努める。
E. 運営推進会議を生かした取組み	コロナ終息時に向け、運営推進会議の開催を検討し、地域の方々との情報交換の場を設ける。	コロナが昨年の5月により「5類感染症」に移行となり定期的に運営推進会議を開催し、地域の方々との情報交換ができた。	昨年の5月から定期的に運営推進会議に参加して、事業所や近隣の方々との情報交換ができたので良かったと思う。	引き続き地域の方々との情報交換や支援について検討する場として運営推進会議を活用していく。
F. 事業所の防災・災害対策	毎月一回の避難訓練や夜間・地震想定等の避難訓練を継続して実施する。災害時における事業所の備蓄の見直しや館内設備の定期点検を再度行う。	毎月一回避難訓練や夜間想定等の避難訓練を実施し、災害発生に備えることが出来ていた。また、3月に「AED講習」を実施を予定している。	外部評価の資料配布時に説明を行い、個々に意見交換を行った。その中でサービス評価の記入の仕方や事業所内容が「分からない」との意見が聞かれた。	毎月一回の避難訓練や夜間・地震想定等の避難訓練を継続して実施する。災害時における事業所の備蓄の見直しや事業所設備の点検を定期的に行う。